

交通機関名	目標を達成するための取組	達成状況・分析		評価・次年度に向けた課題や取組	
		前年同期値及び計画記載目標値	実績値(対前年同期比) 分析		
名鉄西尾・蒲郡線	利用促進補助（親子利用・団体利用）、貸切列車企画、絵画コンクールの実施、愛知こどもの国において地域協働事業「みかわっ国」などを実施	前年:2,947千人（R4年度） 計画:3,376千人（R5年度）	3,063千人 （+116千人）	積極的な活性化事業の推進や補助制度の運用改善による利用者への浸透によるものと思われる。	引き続き、各種活性化事業の推進や補助制度の周知に努めるほか、駅周辺環境の整備などにも取り組み、鉄道を利用しやすい環境を整えることを検討する。
名鉄東部交通バス（幹線）	市内乗降1乗車200円運賃の実施 佐久島渡船との接続や利用実態を考慮したダイヤ改正の実施。 市内学生向け定期券「スクールパス」の発行。	前年:410,689人 （R4.10-R5.9実績） 計画:326,923人 （R5.10-R6.9）	390,315人 （-20,374人）	市内200円均一運賃の継続の他、利用実態に見合った適切な運行計画を実施し、利用者の利便向上に努めた。実績値は昨年を下回ったが、一昨年（329,381人）よりは大幅に増加しているため、頭打ちの段階になっていると思われる。	限られた乗務員数の中でお客さまが利用しやすいダイヤを設定することが必要である。藤田医大系統、東岡崎系統の両方について改善余地がないかダイヤ等の検討を継続する。また、沿線で運行するおでかけタクシー「いこまいカー」の目的地への新たな停留所の追加を検討する。
ふれんどバス（幹線）	HP、CentXなどのスマートフォンでの時刻検索システム、バスロケーションシステムの提供や、コンテンツプロバイダへのデータ提供を行い、利用促進を図った。	前年:276,002人 （R4.10-R5.9） 計画:260,906人 （R5.10-R6.9）	281,541人 （+5,539人）	令和元年度水準まで回復するのは厳しいが、コロナの影響緩和により通勤通学利用が増加してきた。	現状のサービスを維持しつつ、利便性向上に努めるとともに、利用者増加のため、新たな利用者発掘を目的とした利用促進策を実施する必要がある。また、沿線で運行するおでかけタクシー「いこまいカー」の目的地への停留所の追加を検討する。
六万石くるりんバス	民生委員や地域包括支援センター等との連携による公共交通利用講座の実施 名鉄東部交通バスのスクールバスによる無料乗車制度の継続 1日200円均一運賃の実施	前年:212,302人（R4年度） 計画:176,676人（R5年度）	240,398人 （+28,096人）	再編から4年が経過し新しい路線が地域に根付いてきたことによる増加と思われる。	より利用者利便性を向上させるため、より利便性が向上する運賃体系や鉄道への接続性を向上させるダイヤの見直しを行う。
いっちゃんバス	沿線地域イベントと合わせた無料乗車日の実施	前年:3,474人（R4年度） 計画:4,159人（R5年度）	3,126人 （-348人）	利用者数は減少し、1便当たり利用者数は1.3人である。利用者は一部の住民にほぼ限られており、地域の移動需要と運行形態が合っていないと思われる。	現状では持続性のある公共交通とは言い難い。交通モードの転換も含めた、持続可能な地域の公共交通のあり方について地域住民と検討を進める。
いこまいカー	吉良地区において地区公共交通活性化協議会を開催し、目的地の拡大を実施 幡豆地区の一部において選択したエリアを変更可能とする運用を開始	前年:6,342人（R4年度） 計画:3,781人（R5年度）	6,942人 （+600人）	運転免許証自主返納者への制度案内チラシ配布などにより、利用者数が続伸している。	順調に登録者数・利用者数は増加している。利用が集中する平日午前中は、タクシーの供給が不足することがあるため、対策を検討する。路線バスの停留所の目的地追加を検討する。
佐久島渡船（幹線）	御船印の作成・発行を実施	前年:202,614人（R4年度） 計画:213,985人（R5年度）	192,894人 （-9,720人）	コロナ禍を過ぎたものの、観光利用客の戻りが悪く、減少傾向にある。	令和6年度に新造船を導入しPRを行う。また、御船印の取り組みを継続する。